

様式第3号(第12条関係)

復 命 書

復 命 年 月 日	令和8年2月6日(金)
出 張 年 月 日	自 令和8年1月15日(木) 至 令和8年1月16日(金) 2日間 宿泊 有
用 務 地	熊本県熊本市、菊池市
用 務	議会機能向上特別委員会行政視察
て ん 末 (資料添付)	1月15日(木) ○熊本県熊本市(14時00分から16時00分) ・中学生による子ども議会について 1月16日(金) ○熊本県菊池市(10時00分から11時30分) ・子ども議会について ※視察の概要、所感は別紙のとおり

議会機能向上特別委員会 行政視察報告書

林 博幸

- ◇期 日 令和 8 年 1 月 15 日（木）～16 日（金）
- ◇訪問先 熊本県熊本市、菊池市
- ◇目 的 主権者教育の取組
- ◇参加者 林委員長、力武(勝)副委員長、山口委員、加藤委員、川添委員、木寺委員

◆熊本市

- ・日 時 令和 8 年 1 月 1 5 日（木） 1 4 時～1 6 時
- ・対応者 教育委員会事務局 人権教育指導室、議会局 政策調査課

◆取組概要

☑実施のきっかけ

◆平成 9 年（1997 年）「お城まつり」開催に併せ、「中学生による子ども議会」の開催について市長より協力依頼があり、熊本市・熊本市議会・熊本市教育委員会の主催により実施。

◆その後、市議会一般質問等で議員からも継続実施についての要望があったため、毎年度実施されており、令和 7 年度が 25 回目。

☑実施概要

◆第 1 回（平成 9 年）～19 回（平成 27 年）

- ・主催：議会局、教育委員会
- ・期間：3 日間（事前研修、本会議）
- ・目的：子どもたちが、ふるさと熊本のくらしや未来について語り合い、国際社会に生きる市民としての意識を高める。

◆第 20 回（平成 28 年）～第 25 回（令和 7 年）

（※この間、熊本地震、コロナ感染拡大により計 4 回中止）

- ・主催：教育委員会事務局、中学校生徒会連絡協議会の共催
- ・期間：1 日（研修及び本会議）
- ・目的：自ら考え主体的に行動できる人の育成（（社会参画意識を高めること）

① 実施日（令和 7 年度）：7 月 31 日

② 参加生徒数：中学生 51 人

(市内の市立 42 校、私立 8 校、国立 1 校計 51 校の各学校から 1 名選出、選出は各学校に任せられている。2 年生の次期リーダー候補が参加することが多いとのこと。)

③ 事前準備

・全体テーマの決定（主催者側（教育委員会事務局・中生連事務局））

※R7「私たちの声が生きる学校づくり・まちづくりについて話し合おう」

・分科会テーマの決定

事前アンケートの実施（5月） → 集計し、大きく 4 つに絞る

参加分科会の希望調査（6月） → 参加する分科会の決定

・事前課題

※参加する分科会のテーマについて、生徒が各自でまとめてくる

・取組等の事例とそのよさと課題

・自分たちにどんなことができるか

・大人（市）にどんなことをしてもらいたいか

④ 開催当日の流れ

○オリエンテーション

○開会式

市議会議長・教育長から歓迎の言葉

○研修Ⅰ（分科会別）

こども基本法・児童の権利に関する条約について、この法律ができた経緯やこども議会の目的とのつながりについての学び

○研修Ⅱ（分科会別）

※令和 7 年

・学校づくり〔校則見直しについて、生徒会活動の活性化について〕

・まちづくり〔地域交流・地域貢献、安全なまちづくり〕

事前に考えてきたことをもとに話し合う

*私たちの声が生きる学校・まちとはどんな学校・まちか？

*各学校・地域の課題や現状の取組の紹介

*めざす学校・まちに近づくためのアイデア

○研修Ⅲ

*各分科会の話し合いの結果を報告

*質疑応答

*市長からの講評

⑤ 閉会式

⑥ 各分科会での振り返り

<提案による改善事例>

- ・中学生による市長との夢トーク
- ・市政だよりの中学校全学校全学級への配布
- ・子ども向け市政広報のHP開設
- ・節水アイデア募集キャンペーン
- ・雨水貯留タンクの設置
- ・政令指定都市実現に向けたテレビCMの制作
- ・学校でのひご野菜栽培と学校給食「ひご野菜の日」
- ・きずなアンケートの実施 □ 校舎電灯のLED化 など

◎所 感

<熊本市>

・熊本市の子ども議会の取組は、

- ① 自分たちが住む「まち」の問題や課題について、自分事として考え、主体的に行動できる人材の育成（教育振興基本計画の基本理念）に重きをおかれており、参加した子供たちにとっては市政に関心を持つ大きなきっかけとなっていること
- ② また、子どもたちの提案が、市政に反映された事例もたくさんあり、子どもたちにとっては成功体験に繋がる等々素晴らしい取組みであり、今回視察を行ったことで改めて伊万里市議会でも主権者教育を取組んでいくことの必要性を実感した。

<菊池市>

- ・子ども議会がいつから始まったのかわからないくらい回を重ねて開催されているのにまず驚いた。
- ・事前の通告から本会議場での子供たちの質問と市長、執行部の答弁までを本会議場で行われており、参加した子供たちにとっては、議会について興味関心を持つことに繋がる取組みであると感じた。
- ・登壇して質問（発表）する生徒は、すごくいきいきして感動すら覚えるとの説明もあり、未来を担う子供たちにとって子ども議会は大変有益であり、伊万里市議会でもしっかり取り組んでいきたい。

【菊池市】

* 菊池市子ども議会の取組み

1. 菊池市子ども議会開催要項（概要）

(1) 主催 菊池市・菊池市教育委員会

(2) 場所 菊池市議会議場

(3) 参加者

*子ども議員 市内中学校5校各4名 議長選出校は+1名

*市役所 市長 副市長 教育長

政策企画部長 総務部長 市民環境部長 健康福祉部長 経済部長
建設部長 教育部長 議会事務局長 他 (12名)

*来賓 市議会議員(議長 副議長 総務文教常任委員長・副委員長)

教育委員 社会教育委員長 市内中学校長及び担当職員(20名)

*傍聴者 市議会議員 子ども議員保護者 一般市民

*その他 撮影記録担当(広報交流係 生涯学習課)

報道関係者

*事務局 生涯学習課

(4) その他 菊池市役所及び各支所でモニター中継を行う

2. 令和7年度 子ども議会プログラム

(1) 開催日時 令和7年8月1日(金) 午前9時30分～11時50分

(2) 日程【実際の時間の記録】

8:20 送迎バス運行

8:50～9:05 最終打合せ

9:10 受付開始 スタッフ配置

9:20 子ども議員を議場へ誘導

9:32 子ども議会委嘱状配布

開式～委嘱状交付～来賓あいさつ～執行部紹介～日程説明

9:57 子ども議会本会議

◇議長登壇

◇一般質問 10件(各中学校2件ずつ)

1つの通告書を2人で担当し読み上げる

通告の後、市長又は教育長、各部長による答弁がなされる

(答弁概ね、市長2件、教育長2件、他部長)

菊池南中学校 菊池北中学校 泗水中学校

(休憩)

七城中学校 旭志中学校

◇講評(市議会議長)

12:02 閉会 ◇記念撮影◇お礼の会（教育長挨拶・事務連絡・感想記入）

12:30 終了

3. 令和7年度 子ども議会開催までの流れ

5月12日 第1回担当社会議 打合せ

5月13日 第1回担当者会議 出席者：教育長、中学校長、中学校担当者、事務局

- こども会議の内容について
開催要項及びプログラム、開催までのスケジュール確認
- 子ども議会名簿と通告書（質問）の提出について
通告内容抽選
各学校くじ引きで担当部署を決める
①総務・企画 ②教育 ③経済・建設 ④市民環境 ⑤健康福祉
1つは、割り当てられた担当部署への通告書を作る。
ほかの通告書は担当部署以外への通告とする
- 次回担当者会議について

5月15日 事務局→学校へ名簿・通告書の依頼

依頼内容

* 6月2日までに名簿の提出

* 6月12日までに通告書提出

（各校2件以上 1件は割当の課 他は自由選択）

6月13日 通告書検討会議

- 各学校から提出された通告書を一読し協議する
 - ①タイトルは適切か。内容と整合性があるか
 - ②伝えたいことや聞きたいことが具体的であるか
 - ③質問や要望だけでなく、提案型になっているか
 - ④文書量は適切か。（長い、短い）
 - ⑤その他、不適切な表現はないか。誤字脱字はないか。

6月19日 教育長・部長打合せ（子ども議員からの通告書を各学校2件に絞る）

6月26日 答弁書作成依頼（関係各課に答弁書の作成依頼）

7月4日 答弁書の提出締め切り（生涯学習課まで提出）

7月14日 第2回担当者会議打合せ、議会事務局との打ち合わせ

7月18日 第2回担当者会議準備・市長との答弁打合せ

7月18日 第2回担当者会議 出席者：子ども議員、中学校担当者、市議会事務局
事務局（生涯学習課）

- 子ども議員顔合わせ●市議会の概要についての説明●答弁内容把握
- 最終通告書の提出●当日の流れの確認●議場の見学・リハーサル

7月23日 最終通告書の提出（学校から生涯学習課へ）

7月25日 各課で最終通告書確認・最終答弁書確認

7月31日 生涯学習課で最終通告書確認・最終答弁書確認
議会事務局との打ち合わせ、子ども議会準備

8月1日 子ども議会（午前9時30分～11時50分）

4. 社会教育指導員の協力体制

社会教育指導員（校長先生等を歴任された方）が、生涯学習課又は各中学校区内にある公民館に配属されていて、各学校での子ども議会通告書作成についての協力体制が取られている。

4. 子ども議会の感想（子ども議員）1例

◇ 菊池市により関心を持ち、これから自分たちにできることは何か考える貴重な機会になったと思います。これまでとは違う様々な角度から菊池市について考え、提案し合うことで、自分が住んでいる市を深く知ることができました。これから自分が住んでいる菊池市について、たくさん知って、安心して暮らせるより良いまちづくりのために、自分でできることを考え、行動したいです。

5. 子ども議会での通告書で、これまで行政事業へ反映されたこと

令和3年度「Zoomを使おう コロナ禍でも国際交流」

→韓国中学校との国際交流

令和4年度「SDGs 未来都市計画の目標達成に向けて」

～菊池市ふるさと創生市民広場の活用～

→菊池市 SDGs フェスティバルの開催（提案以降毎年開催）

令和5年度「七城中に再びビオトープを！七城町に、そして菊池に」

→ビオトープ再生支援

令和6年度「高齢者の健康維持増進、eスポーツ環境の普及について」

→中学生と高齢者の交流によるeスポーツ講座の実施

所感（力武勝範）

1. 熊本市

熊本市の子ども議会は、平成9年から実施されており、当初は議会事務局及び教育委員会事務局での実施とされていたのを、平成30年からは教育委員会事務局と中学校生徒会連絡協議会での実施と変更されている。また、当初は市政に関する課題についてのグループ討議がなされていたが、参加されていない生徒への波及効果が難しいということで、令和4年度からは社会参画意識を高めることを目的に、市政ではなく学校生活の中でのテーマ、区や居住地の課題をテーマにしたグループ討議へと改善されていた。子どもたちに何が必要か、将来を担う子供たちをどの様にして育成するかという視点で実施されていることに感銘を受けました。伊万里市議会でも来年度から子ども議会を計画しているが、教育委員会や市長部局との連携が重要であり、将来的には教育委員会との共同開催又は教育委員会主催へ移行できるよう意義ある子ども議会にしていかなければならないと実感しました。

また、グループワークを実施する場合、子どもたちの発言・考えを引き出すためには、ファシリテーターの存在は重要であり、熊本市子ども会議では指導主事等を歴任された元教員や教育委員会職員が行われ、積極的なグループワークが実施されているとのことである。伊万里市議会でも、来年度から子ども議会におけるグループワークの実施を計画しているが、議員に対するファシリテーター研修が必要であり、子どもたちの発言・考えを引き出すことが出来なければ、次年度以降の継続はむずかしいのではないかと感じています。

2. 菊池市

菊池市の子ども議会は、教育委員会主催で行われており、各中学校には、通告書のテーマが市の各部の所管に関するものが割り当てられ社会教育指導員等が積極的にかかわることではなく、生徒自身の考えでそれぞれの部署の課題を見つけ通告書を作成されていることに感心しました。いつ頃から行われているのか現在の職員もわからないくらい以前から実施されているとのこと、市役所の仕事を子どもたちに積極的に考えてもらうことは、市の活性化・発展にもつながり、伊万里市でも参考にすべき点である。

また、通告書（一般質問）の内容を、伝えたいことや聞きたいことが具体的でわかりやすいか、質問や要望だけでなく、提案型になっているかなど、職員等で協議され適切な指導がなされていた。私たち市議会議員が行っている一般質問においても、伝えたいことなどが具体的でなかったり、質問や要望だけの一般質問となっている件数が多く見られ、今回の視察を終えて単に子ども議会の在り方の視察だけでなく、私たち市議会議員の一般質問についても参考にすべき点があったかと思いました。

熊本市

熊本市における中学生による子ども議会は、平成9年に初めて開催された時から令和7年の現在に至るまでに検証と改善が繰り返されており、その開催の目的も変化していた。

当初は子ども議会を通して熊本の未来について語り合い、国際社会に生きる市民としての意識を高めることを目的としていたが、現在では令和4年に制定された子ども基本法の理念に基づき、その事前研修を行った上で、社会参画意識の向上と意見表明権の行使を目的としている。

子ども基本法の研修を行うことで、子どもたちが安心して意見を表明できる環境づくりができ、その運営を教育委員会及び教職員が担うことで公平公正かつ適切な補助の役割を果たすことができるのは利点だと感じた。議会主導で開催する場合、運営する議員側の事前研修は必須であり、実施目的の理解を深め意思統一を図った上で行うことが必要不可欠と考える。

菊池市

菊池市における子ども議会開催の趣旨は、①模擬議会を通じて市議会・行政の意義や仕組みを理解し、関心を高めること、②思考・提案することにより郷土愛の醸成を図り、菊池市の未来を担う青少年を育成すること、にある。

子ども議会の実施については、この趣旨や目的を明確にすることが重要であり、どのように設定するかによって進むべき方向性も大きく異なるのだと、二市の視察を通じて感じた。伊万里市議会では議会が主体となって実施するので、教育委員会が主体となって行う場合のような教育的側面よりも、議会の仕組みについて正しく伝え、議論や異なる意見を聞くことを楽しんでもらうことを目的として進むことが適当であると考えます。

視察所感 熊本市「中学生によるこども議会」

木寺 智子

熊本市の「中学生によるこども議会」は、平成9年(1997年)に市長からの協力依頼を契機として始まり、熊本市・市議会・教育委員会の主催で継続されてきた取組である。災害や感染症の影響で中止となった年を挟みながらも、毎年度の事業として積み上げてきた歴史そのものが、「子どもの声は一過性で終わらせない」という自治体の姿勢を物語っていると感じた。初期は3日間の日程で、互選により議長・副議長を選出し、本会議形式で中学生の質問や提案に市長・執行部が答弁する“議会体験”の色が濃い設計であった。一方、現在は1日開催を基本としつつ、研修と分科会での対話に重きを置く構成へと整理されている。特に、こども基本法や児童の権利に関する条約を入口に置き、「意見を言うことは特別なことではなく、誰もが持つ権利である」という共通理解をつくった上で話し合いに入る流れは、とても丁寧で、学びの土台として強いと感じた。

議題設定も、子どもたちの生活の延長にきちんと置かれている。校則見直しや生徒会活動、地域交流、安全なまちづくりなど、日々の学校生活や地域の中で子どもたちが感じていることを出発点にし、各校・各地域の現状や課題を持ち寄って「めざす姿」と「そこへ近づくためのアイデア」を考える構成である。ここには、子どもを「参加させる対象」として扱うのではなく、「地域と一緒につくる当事者」として正面から迎え入れるまなざしがある。参加生徒の振り返りにも、他校の取組を知ることで視野が広がったこと、子どもの声が尊重されていることを実感できたことが表れており、単なる体験行事ではなく、子ども自身の自己肯定感や社会への信頼につながる時間になっていると受け止めた。

心に残った“聞いて終わり”にしない仕組み。市長との夢トークや節水キャンペーン、雨水貯留タンクの設置など、子どもの声が改善や取組につながった事例が示されていた。声が施策や行動に結びついた経験は、子どもたちに「言っている」「言えれば届く」という確かな感覚を残す。引率教職員の声にも、分科会で多角的な意見を持ち寄り、意見を練り上げる学びや学校間のつながりが生まれる価値が表れていた。事後に各校の取組へつなげ、発信まで行うことで、学びが循環している点も大きな強みである。

少し話は逸れるが、私は昨年12月議会の一般質問「子どもの権利について」の項目の中でこども基本条例について触れ、子どもの権利や参画を市の土台に据える必要性を訴えた。今回の視察は、その“条例の理念”を、子

どもたちの体験として現場に落とし込み、息の長い仕組みとして育てていく具体例であると感じた。条例は、紙の上で完成するものではない。子どもが安心して意見を述べ、その意見が丁寧に受け止められ、時に形になっていく――その積み重ねの中で、初めて理念に血が通うと考える。

伊万里市で同じように取り組もうとする際、まずは「権利」の理解を深めて意見表明のハードルを下げるのが大切だと思う。それから少しずつ間口を広げていきたい。子どもの声は、未来への要望であると同時に、いまの課題を照らす光でもある。柔らかく受け止めながらも、届いた声が次の一步に変わる自治体でありたいと考える。

最後に学んだこと。熊本市では「こども局」を設置したことで、子ども施策を横断的に捉え、学校・地域・関係機関との連携をより深めながら、子どもたちとの継続的な関わりを築いていける体制が整っている。担当部署の軸が明確になることは、子どもたちにとっても「相談できる先」「声を届けられる先」が見えやすくなる。こども議会で生まれた声を、次の対話や施策へ丁寧に つなぐ“受け皿”としても、こども局の存在は大きいと思う。伊万里においても、さらにブラッシュアップして仕組みを整える必要があると改めて感じた。

菊池市では、市内五つの中学校から選ばれた 20 名の子ども議員が本会議形式で市政への質問や提案を行っており、単なる議会体験ではなく、「自分たちのまちをどう良くしていくか」を真剣に考える場として長年積み重ねられてきた取組であると感じた。印象深かったのは、通告書からかなり本格的であるという点。子どもたちの考えを引き出し形にしていくまでを、社会教育指導員が丁寧に支えているとのことであった。一方で、関わりすぎれば大人の考えになってしまうという難しさもあり、自主性を大切にしながら質を高めていく工夫が続けられていることに、この取組の奥深さを感じた。また、これまでの提案の中には実際に行政施策として形になったものもあり、子どもたちが「自分たちの声がまちを動かした」と実感できている点は非常に大きな成果と言える。答弁で約束された取組が現実につながることで、市政が身近なものとなり、まちへの関心が自然と育まれているのだと感じた。その一方で、運営主体や協力体制の整理、学校や各課の負担への配慮など、制度として整えるべき課題も多く残されていることが分かった。こども議会を続けていくためには、熱意だけでなく、支える仕組みづくりが欠かせないことを改めて実感した。さらに、傍聴者がまだ少ないことや、参加していない生徒への学びの広がりが十分ではない点も課題として挙げられていた。せっかくの取組が一部の子どもの経験にとどまるのではなく、学校全体、地域全体へと広がっていく工夫が必要であると感じた。

菊池市のこども議会は、こどもを「学ばせる存在」ではなく、「まちをつくる一員」として大切にしている取組である。こどもたちの素直な視点や柔軟な発想は、行政や議会にとっても大きな気づきとなり、私たち大人自身の姿勢を見直すきっかけにもなっている。今回の視察を通して、伊万里市においても、子どもたちが安心して声を上げ、その声が市政に生かされる仕組みをつくっていくことの大切さを強く感じた。

～二箇所の視察を終えて感じたこと～

本格的なやりとりを行うとしたら、市長部局主導の体制が望ましいのではないかと感じたところである。議会としては見学や模擬体験などの入り口を担い、市長部局においては政策提案や答弁を含めた実践的なやりとりを行うなど、役割の線引きを整理することも一つの方向性ではないかと考える。

何より大切にしたいのは、こどもたちが主体となること。大人が整えすぎるのではなく、支えながらも主役はこどもであるという姿勢を貫くことが、真の参画につながると感じた。熊本市や菊池市の実践から学びながら、伊万里市らしい主権者教育の形を模索し、未来を担うこどもたちの声が生きるまちへとつなげていきたい。

議会機能向上特別委員会行政視察報告書

令和8年1月15日～16日

川添 智徳

1. 熊本県熊本市

中学生によるこども議会がスタートしたきっかけは、平成9年「お城まつり」開催に併せ「中学生による子ども議会」の開催について市長より協力依頼があり、熊本市・熊本市議会・熊本市教育委員会の主催により実施された。

その後、市議会や一般質問等で議員からも継続実施についての要望があったことから、毎年度実施されるようになった。

昨年度は約50名の生徒が4分科会に分かれ、「学校づくりや、まちづくり」について協議し議場にて意見を報告していた。

本市においてもこれから実施するにあたり、大いに参考になる事例であると感じた。

2. 熊本県菊池市

菊池市のこども議会開催の目的は模擬議会の体験を通して中学生が市議会・行政の意義や仕組みを理解し関心を高めるたであり、また、まちづくりや将来について思考・提案することで、郷土愛の醸成を図り市の未来を担う青少年を育成するためであった。

主催は市と教育委員会の執行部主催であり、内容はかなり本格的なものであった。その中でも一番興味深かったのは、その後こどもたちからの問題提起や提案がいくつか行政事業へと反映されていたことであった。

本市においてもこれから実施するにあたり大いに参考になる事例であった。

行政視察報告書

議会機能向上特別委員会 委員 山口常人

○日時 令和8年1月15日(木)～16日(金)

○場所 熊本県熊本市、菊池市

1. 1日目 熊本市議会(14:00～16:00)

○中学生によるこども議会について

平成9年の議員の一般質問が契機があり、毎年実施される事となり教育委員会の主催で行なわれている。

才1回から令和7年で25回目となる

1) 参加生徒の感想

○色々な視察からの意見が知れた事で、今後の活動が生き生き。

○関心をもてる様になった。

○こどもの声が尊重されてる事を実感できた。

2) 教職員の感想

○自分の意見が尊重される事を生徒が理解し、自分達の環境について考えよう良い機会になったこと。

○自分達などの様に意見を練り上げ、発表する機会と云う事を学ぶ機会になった事など。

3) 成果(各学校での取り組み)

○参加する生徒が、各校の次期リーダー的存在と成っている。

○引率の教職員が、生徒会の担当者が多い。

○校則、生徒指導の在り方等見直しにも生かされている。

4) 所感

このほか、熊本市は又5回の実験が実施されていること、協議会のレベルが高く、また機能している。本市でも積み上げること、また活動して行くこと、更に参考と成り下す。

1. 又日 菊池市議会 1月16日(金) 10:00~11:30

1) 菊池市子ども議会について(趣旨)

- ① 模擬議会の体験を通じ、本市中学生が市議会、行政の意義や仕組みを理解し、関心を高める。
- ② 本市の子たちがくみや将来について思考、提案を可き事、郷土愛の醸成を図り、菊池市未来を担う、青少年を育成可き。

2) 主催

菊池市、菊池市教育委員会

3) 参加者

○ 子ども議員 ~ 21名 (5校×4名)

○ 市役所 ~ 市長、副市長、教育長、各部長

○ 来賓 ~ 市議会議員(議長、副議長、各部長、副)

○ 傍聴者 ~ 市議会議員、保護者、一般市民

○ その他 ~ 撮影記録(広報担当、生涯学習課)
報道関係者

○ 事務局 ~ 生涯学習課

4) その他

○ 菊池市役所及び各工区(支所)にて、天=夕-甲継可き。

所感

。以上の様に子ども議会に対する菊池市の取り組みが又、熱量が高く、子ども達の期待感を感じて、南催要項を見せて頂き一連の流れがしっかりと進め上がっている、ここが至おに不及りのエネルギー、議論が成されたのではと思う次第。

菊池市の取り組み内容は、今の菊池市に採用、活用もやぶさかでは無いと思われた。

ありがとうございます。

市議会議長

中山光義 様